

陸滿樞密

參謀總長へ回答案

首題ノ件ニ付本月八日附臨參樞第七師第一
照會ノ趣異存ナシ

陸滿樞密第二編

昭和十一年二月九日

上奏案

滿洲派遣第七師團同留守部隊帰還復帰要領

制定方施行ノ件

滿洲派遣第七師團同留守部隊帰還復帰要領制
定ノ件 允裁相成美ニ付テハ別紙軍令案ノ通之
カ施行ヲ命セラレ度謹テ奏ス

朕滿洲派遣第七師團同留守部隊帰還復帰要領
ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス

御名御璽

年 月 日

陸軍大臣

軍令陸甲第一號

軍令陸甲第一號 三月九日

別紙ノ通

滿洲派遣第七師團留守部隊帰還復帰要領細則

ノ件

關係陸軍諸部隊ノ達案

滿洲派遣第七師團留守部隊帰還復帰要領細則

別紙ノ通定ム

陸清機密第三編

昭和十年二月九日

副官より関東軍参謀長へ電報案(暗号)

満洲派遣第七師團の留守部隊帰蒙後帰要領(軍)

令陸甲第一師(師)の細則(陸滿機密第三編)本

日癸令セラル書類ハ中西砲兵少佐携行本日本癸ス

陸清八〇

昭和十年二月九日

副官より第七師團留守参謀へ電報案(暗号)

前月文(但し書類以下ヲ)書類ハ本日癸送ス

依ル

陸清八〇

昭和十年二月九日

上素御
ノ上奈

上奏御裁可後高津副友ト連絡
ス

0412

上奏御裁可後高津副友ト連絡
ス



0413

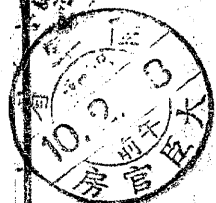
陸軍省
臨時參謀部
第七
號第一

滿洲派遣第七師團、同留守部隊歸還復歸要領
同細則起案ノ件照會

昭和十年二月八日 參謀總長 載 仁 親 王

陸軍大臣 林 銑十郎 殿

首題ノ件ニ關シ別冊ノ通起案セシニ付異存無クハ要領ニ在リテハ
可仰 允裁細則ニ在リテハ令達方取計ハレ度照會ス



陸軍

本協議用



八拾部、内第

百號

昭和十年三月七日
參謀本部第一課

滿洲派遣第七師團、同留守部隊歸還復歸要領

決定案

0414

0415

本案ハ昭和九年九月二十七日附決定案ヲ
變更ス

回答 明九の附ハセシタレ

滿洲派遣第七師團、同留守部隊歸還復歸要領

第一條 本要領ハ滿洲派遣第七師團、同留守部隊ノ歸還

復歸ニ關スル事項ヲ定ム

本要領中特ニ規定セサル事項ニ關シテハ陸軍動員計畫令其ノ他關係諸條規ヲ準用スルモノトス

第二條 滿洲派遣第七師團、同留守部隊ノ復歸ニ關スル

業務ハ第七師團長之ヲ管理スルモノトス

第七師團長ハ陸軍動員計畫令第百八十六條ニ依ル特設部隊ノ復歸ヲ補助スル部隊長ヲ指定スルモノトス

第三條 前條ノ部隊ハ復員令ニ依ルコトナク本要領ニ

依リ復歸地到着ノ日(留守部隊ニ在リテハ當該常設部隊本ヨリ部司令部ヲ含ム)ノ衛戍地歸著ノ日
逐次平時ノ態勢ニ復スルモノトス(北支那中隊ヲ派遣スル等ノ際ハ其ノ旨ヲ定ム)

第四條 各部隊ハ復歸地ハ復歸部隊又ハ復歸ヲ補助スル部隊ノ平時所在地トス

第五條 派遣師團同留守部隊ニ屬スル歸還師團長留守司令官歸還諸部隊長留守諸部隊長ノ職權及職務等ニ關シテハ大正十一年軍令陸乙第十四號滿洲駐劄師團交代要領ノモヲ準用スルモノトス

第六條 第七師團長ハ復歸完了セハ速ニ其ノ完結ヲ陸軍大臣參謀總長ニ報告シ且完結日一覽表ヲ前諸官ニ呈出スルモノトス

第七條 本要領實施ニ關スル細部ノ事項ハ陸軍大臣參謀總長協議決定ス

附則

0418

一 本要領實施ニ伴フ昭和九年度動員計畫ノ改變ニ關
シテハ臨機之ヲ指示ス

本協義用

極秘

入拾部ノ外第一號

昭和九年九月廿七日
參謀本部第一課

滿洲派遣第七師團歸還復歸要領細則

同留中師團

決定案

0419

滿洲派遣第七師團歸還復歸要領細則

同留守部隊

其一 總則

第一條 本細則ハ滿洲派遣第七師團同留守部隊ハ歸還復歸要領以下

要領ト實施ニ關スル細部ノ事項ヲ規定スルモノトス

第二條 要領實施ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外陸

軍勤員計畫令細則其ノ他關係諸條規ヲ準用スルモノ

トス

其二 人員

第三條 復歸ノ際ニ於ケル人員整理ニ當リテハ在營延

期者及編制定員幹部候補生引當定員ニ超過スル昭和八

年徵集兵ハ之ヲ除隊セシムルモノトス但シ滿洲ニ於

テ除隊セントスル者アルトキハ昭和三年陸支隊第七

七號山東ニ在ル部隊ニ屬スル軍人ニシテ其ノ地ニ
殘留ヲ希望スル者ノ除隊ニ關スル件ニ準シ取扱フコ
トヲ得

昭和九年陸滿機密第二三號滿洲派遣第三第十六師
團編制改正要領細則及同陸滿機密第二五號滿洲派
遣獨立混成第十一旅團第四獨立守備隊ノ編成及派
遣要領細則附表第一備考四ニ依ル第七師團ノ差出
人員中派遣部隊ノ者ニ在リテハ派遣地ニ於テ速ニ留守
部隊ノ者ニ在リテハ派遣師團歸還後速ニ之ヲ差出
スモノトス

第四條 歸還部隊ノ東ニ屬スル者ニシテ引續キ療養ヲ要スル者ハ關東軍衛生機關ニ殘置スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ將校同相當官准士官ハ其ノ傷病名所屬部隊並官氏名ヲ下士官以下ニ在リテハ傷病名所屬部隊並人員ヲ陸軍大臣ニ報告シ且關係所管長官ニ通報スルモ其ノ下士官以下ノ者ハ其ノ前項ニ準シテ殘置スルコトヲ得

第五條 歸還部隊ニシテ現ニ任務達成ノ為徵用シヤル

歸還部隊ハ平時編制軍馬管理規則ニ依ル豫ニ一致スル如ク保管馬匹留守部隊ヲ含ムヲ滿洲ニ於テ整理シ過剩馬ハ之ヲ關東軍ニ交付スルモノトス但シ之カ為關東軍司令部定數外馬匹ヲ超過スルコトナシ

歸還部隊派遣中任務達成ノ為徵用シタル人馬ハ各部隊ニ於テ適宜之ヲ解備適宜交換ノ上ハスルモノトス但シ關東軍司令官ニ於テ特ニ必要ナルモノハ適宜之ヲ他ニ轉用スルコトヲ得

第六條 歸還部隊ハ諸種ノ業務引継ノ為必要ナル時ハ昭和九年陸滿接密第八號滿洲派遣第三、第六師團ノ編成派遣並第十、第十四師團ノ歸還復歸要領細則並表第三ニ準シ必要ノ人員ヲ殘置セシムルコトヲ得

第七條

歸還部隊ハ派遣ニ際シ携行セル兵器銃類ヲ及現ニ兵器表
 ニ依リ保管シアル兵器銃類ヲ携行歸還スルモノトス但シ部隊裝
 備用砲兵彈藥^(及自給車)過剩ノモノ及具ノ他ノ部隊裝備用彈藥(銃彈
 藥筒ヲ除ク)ハ陸軍兵器本廠長管理トシテ野戰兵器廠ニ引繼
 クモノトス

前項但し書ノ兵器ノ品目、員數ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スルモノトス
 各所ニ在リテハ派遣ニ際シ携行セルモノハ全部携行歸還シ派遣地ニ
 於テ交付ヲ受ケシモノハ總テ之ヲ関東軍ニ返納スルモノトス関東軍
 司令官ハ右返納器材ヲ受領セハ動員用駐劄師團用及其
 ノ他ニ區分シ之ヲ保管スルモノトス
 兵器ニ係ル陸族調練品ハ之ヲ派遣地最寄部隊ニ引繼使用スルモノトス

第六條 歸還部隊ノ附刃セシ兵器及現ニ兵

器表ニ依リ保管シテ兵器ヲ携行歸還スルモノトス
但シ部隊裝備用彈藥砲兵彈藥銃彈藥箱ヲ除クハ之ヲ
關東軍司令官ノ定ムル部隊ニ過剩ノモノハ陸軍兵器
本廠長管理トシテ野戰兵器廠ニ引継クモノトス
前項ノ過剩兵器ノ品目員數ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スルモノトス
兵器ニ係ル臨機調辦品ハ之ヲ派遣地最寄部隊ニ引継
使用スルモノトス

第七條 歸還部隊ノ附刃セシ刀劍ハ之ヲ滅カスルヲ要
ス但シ平時ノ效用ニ充ソヘキ刀劍ハ之ヲ滅カスル
モノトス

一 歸還部隊ハ收遣ニ際シ著裝(携行)シタル被服ヲ著裝(携行)歸還スルモノトス但シ缺數トナリタルモノハ之ヲ

補填スルモノトス

二 前號以外ノ被服品ハ關東軍司令官ノ定ムル所ニ依リ新收遣部隊ニ引継キ又ハ關東陸軍倉庫ニ返納スルモノトス但シ歸還輸送途中特ニ要ナルモノハ適宜著裝歸還シ之ヲ最良陸軍被服廠ニ返納スルコトヲ得

ハ左記各號ニ依リ處理スルモノトス

一、激遣ノ際携行セルモノ滿洲事情實ヲ以テ調辨ハ之ヲ携行歸

還スルモノトス但シ缺數ハ之ヲ補填スルモノトス

二、他部隊ヨリ交付ヲ受ケタルモノハ之ヲ原交付部隊ニ還送

(返納)スルモノトス但シ原交付部隊ニ還送(返納)スヘキ

諸品中釋鉢、給養器具並其ノ他ノ諸品ニシテ在關東

軍諸部隊ニ交付スルヲ便トスルモノニ在リテハ關東軍司

令官ニ於テ關東陸軍倉庫又ハ最寄部隊ニ交付スル

如ク適宜之ヲ規定スルモノトス

三、前各號以外ノモノハ關東司令官ノ規定スル所ニ依リ新

激遣部隊ニ引継キ又ハ關東陸軍倉庫ニ返納スルモノ

トス

四、歸還輸送途中特ニ必要ナルモノハ適宜携行スルコト

ヲ得

第十三條 歸還

ヲ除ニ關シテハ昭和七年陸滿樞密第六號送軍
需品及歸還部隊携行軍需品復舊整理規定ニ依ルモノ
トス

第十三條

調査擔任官ハ各部隊ノ携行歸還セル戦用諸

品ノ復舊整理區分陸軍勅員計畫令細則附錄様式ニ依ルヲ復歸完了後ニ

箇月以外ニ陸軍大臣ニ報告スルモノトス

前項ノ報告ニハ編成ニ際シ交付セル戦用充當品充當

過品平時使用品ノ區分及數量等ヲ明カナラシムルモ

トス

其四 輸送

第十四條 鐵道船舶輸送ハ左記輸送處理官之ヲ處理ス

ルモノトス

參謀總長ハ該諸官位所要ノ部隊長ニ對シ直接區處ス
ルモノトス

鐵道輸送 參謀總長ノ指示スル輸送處理官

船舶輸送 陸軍運輸部長

第十五條 第七師團長ハ成ルヘク速ニ歸還部隊及資材

ニ關スル輸送請求表格式ハ陣中要務令附録ニ準シ且
希望スル輸送順序ヲ附記スルモ

スト各二通ヲ參謀總長及關係輸送處理官ニ呈出(送付)

シ輸送實施ニ關シ歸還部隊ヲシテ輸送處理官ノ區處

ヲ受ケシムルモノトス

第十條 輸送處理官ハ參謀總長ノ指示ニ基キ輸送計

畫ヲ定メ之ヲ輸送計畫官及關係輸送處理官ニ通報ス

ル下同時ニ陸軍大臣及參謀總長ニ報告スルモノトス
第十七條 輸送間ニ於ケル給養擔任區分左ノ如シ

外地部隊長

朝鮮軍司令官

陸軍運輸部長

第十七條 輸送實施ニ必要ナル軍隊輸送用補助材料ハ

陸軍運輸部保管ノモノヲ使用シ其不足ハ陸軍運輸部

長臨機調辨スルモノトス

第十八條 輸送處理官ハ本輸送終了後其ノ實施概要ヲ

陸軍大臣參謀總長ニ報告スルモノトス

其五 經理

第十九條 復歸部隊ハ復歸地歸著ノ日糧秣ハ歸限

著ノ時

陸軍戰時給與規則ノ適用ヲ停止ス

第二十條 歸還部隊(人馬)ノ外地陸地ニ於ケル旅籠料

ハ陸軍旅費規則第五表旅籠料ノ三割増以内ニ於テ實

費支辨スルコトヲ得

第二十一條 歸還復歸ニ要スル左記各號ノ經費ハ滿洲

事件費ノ支辨トス

一 歸還部隊(人馬)ノ復歸地歸著ノ日糧秣^{糧秣}ハ歸還ニ要

スル經費

二 復歸ノ際衛戍病院ニ入院シタル派遣地還送患者

ニ係ル經費

三 歸還復歸ニ關シ特ニ要スル經費

第二十二條 歸還部隊ノ携行歸還シタル前途^後資金ニ殘

0434

軍事機密

參謀本部 臨參機第 七 號第 三

滿洲派遣第七師團、同留守部隊歸還復歸要領
制定御裁可ノ件通牒

昭和十年二月九日 參謀總長 載 仁 親 王

陸軍大臣 林 銑十郎 殿

滿洲派遣第七師團、同留守部隊歸還復歸要領制定ノ件別冊ノ通
御裁可アリシニ付通牒ス

追テ御裁可書ハ用濟後御返戻アリ度

御裁可書返戻

三月十六日



陸 軍

滿洲

陸軍大臣林銑十郎殿
第一四號

第一次歸還部隊復歸

完了ノ件報告

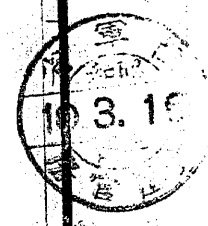
昭和十年三月十五日
陸軍大臣林銑十郎殿

滿洲派遣第七師團ヨリ歸還セシメラ

復歸完了セルヲ以テ報告ス

部隊名 復歸完結日

左記



陸軍

野砲隊第七聯隊 (一中隊隊欠)	三月十二日
歩兵第十四旅團司令部	三月十二日
歩兵第二十八聯隊	三月十二日
歩兵第二十七聯隊	三月十三日